

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3061048号

(45) 発行日 平成11年(1999) 9月14日

(24) 登録日 平成11年(1999) 6月16日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 1 C 1/00

識別記号

F I

A 4 1 C 1/00

E

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願平11-1168

(22) 出願日 平成11年(1999) 1月26日

(73) 実用新案権者 000000398

厚木ナイロン工業株式会社

神奈川県海老名市大谷3905番地

(72) 考案者 大葉 麻衣子

神奈川県海老名市大谷3905番地 厚木ナイ

ロン工業株式会社内

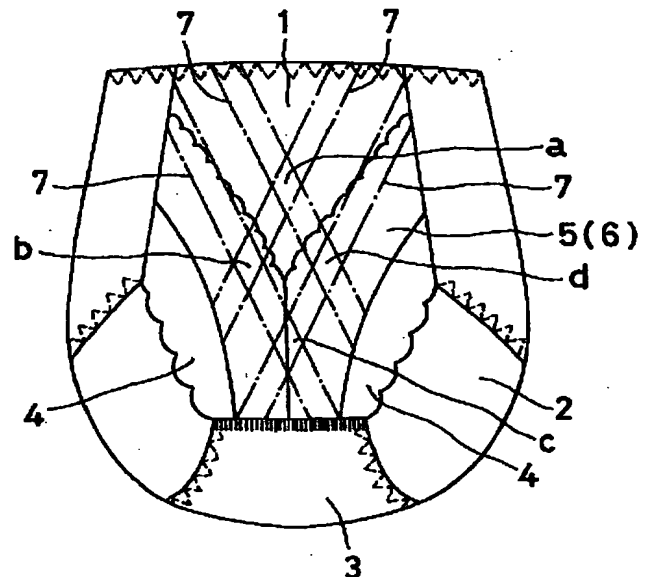
(74) 代理人 弁理士 浅賀 一樹

(54) 【考案の名称】 ガードル

(57) 【要約】

【課題】 着脱が容易にして腹部を押える機能も充分にあるガードルを提案するものである。

【解決手段】 フロント布を構成する表生地と裏当て生地との間に複数本の伸縮性テープを斜めに交差するように挿入し、各テープの両端を該表・裏両生地の縫合縁に縫着してなることを特徴とするガードル。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 フロント布を構成する表生地と裏当て生地との間に複数本の伸縮性テープを斜めに交差するように挿入し、各テープの両端を該表・裏両生地地の縫合縁に縫着してなることを特徴とするガードル。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係るガードルの正面図である。

【図2】 フロント布を構成する表生地（及び裏当て生地）と伸縮性テープとの位置関係を示すガードル着用前の説明図である。

2

* 【図3】 ガードル着用状態における表生地（及び裏当て生地）と伸縮性テープとの関係を示す説明図である。

【符号の説明】

1－フロント布

2－臀部布

3－股布

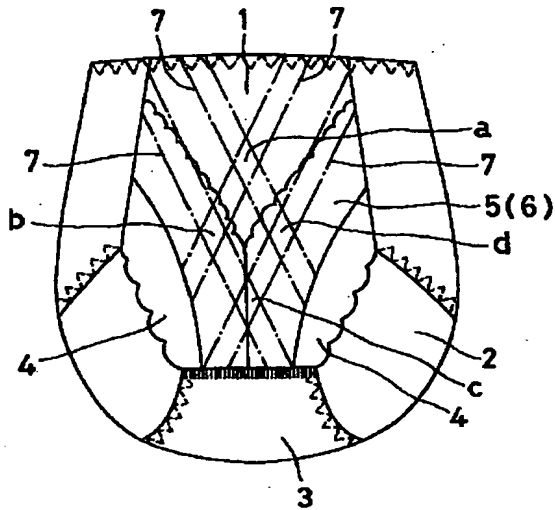
4－フロントレース

5－フロント表生地

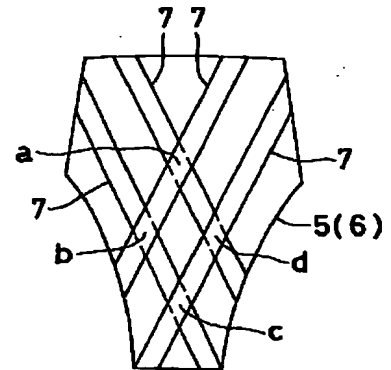
6－フロント裏当て生地

* 10 7－伸縮性テープ

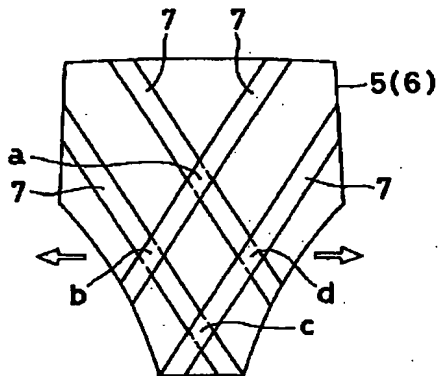
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、腹部を押える機能が充分にあつて、しかも着脱も容易なガードルに関するものである。

【0002】**【従来技術】**

従来のガードルは、着用者の腹部に当るフロント部の内側にパワーがあつて伸びの少ない（あるいは伸びない）生地を縫着することにより着用者の腹部を押える機能を発揮させているが、これは同時にフロントのウエスト部の伸びが規制されるため、ガードルを着脱し難いという問題があつた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は、着脱が容易にして腹部を押える機能も充分にあるガードルを提案するものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、フロント布を構成する表生地と裏当て生地との間に複数本の伸縮性テープを斜めに交差するように挿入し、各テープの両端を該表・裏両生地の縫合縁に縫着してなるガードルに関するものである。

以下、本考案のガードルの実施形態を図により説明する。

【0005】**【考案の実施の形態】**

図1はガードル全体の正面図で、1は腹部に当る同形同大の表生地5と裏当て生地6とからなるフロント布、2は脇から臀部まで覆う臀部布、3は股布で、フロント布1前面には必要によりフロントレース4が縫着されている。

【0006】

フロント表生地5は伸縮性に優れ、縦及び横にバランスよく伸びる素材が用いられ、フロント裏当て生地6も伸縮性に富んだ生地が用いられる。

【0007】

7はフロント布1を構成する上記表・裏両生地5, 6の間に挿入された例えばスパンテープのような薄手で伸縮力の強い複数本のテープで、該伸縮性テープ7は幅が2～3センチの比較的広幅のものが用いられ、例えば図示のように若干の間隔を置いて平行する2本を1組として、2組を準備し、一方の組は表生地5（従って裏当て生地6）の左上から右下方向へ、他方の組は右上から左下方向へ生地5全体にわたって差渡すようにして、両組のテープ7を互いに斜めに交差させ、各テープ7の両端は表・裏両生地5, 6の縫合縁に縫着してある。

これにより、2本のテープ7が互いに交差した部分a～dはパワーが2倍となり、このa～dに囲まれた内側の菱形部分が丁度下腹部分に当る（図2参照）。

【0008】

そこで、このガードルを着用したときには、表・裏両生地5, 6が全体、特に横方に大きく伸びて広がり、それに伴って各テープ7も伸ばされ、上記a～dに囲まれた菱形部分の面積も大きくなる。そして、伸縮性テープ7は伸ばされれば伸ばされる程収縮力が強いので、上記菱形部分は大きくなればなる程腹部を押えるパワーは大きくなるのである。

【0009】

また、このガードルを着脱するためにウエスト部分を広げても、テープ7はそのウエスト部分だけが一緒に動くだけで伸長させるものではないので、各テープ7には負荷がかからず、ガードルのウエスト部分を容易に広げることができるのである。

【0010】

【考案の効果】

本考案のガードルは以上のように構成され、斜めに交差させるように入れた伸縮性テープの相互作用により、着用者の腹部を強く押える力を発揮し、ガードル自体の着脱も極めて容易であって、着用感も良好である。